



OIST プレスリリース

OKINAWA INSTITUTE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY GRADUATE UNIVERSITY
沖縄科学技術大学院大学

2016年12月15日

沖縄科学技術大学院大学

次期学長にピーター・グルース博士が決定

この度、沖縄科学技術大学院大学学園 (OIST) 理事会は、ピーター・グルース博士 (67) を OIST 学園の次期理事長兼学長に選任しました。グルース博士は遺伝子制御および発生生物学の分野で国際的に著名な研究者で、2002 年から 2014 年までドイツのマックス・プランク学術振興協会 (MPS) 会長を務めました。MPS 会長の前職では、ドイツのゲッティンゲンにあるマックス・プランク生物物理化学研究所分子細胞生物学部部長を 16 年間務めました。同博士は 2011 年 11 月の本学創立時から理事長兼学長を務めるジョナサン・ドーファン博士の後任として、2017 年 1 月 1 日に就任します。グルース博士は本日、鶴保庸介内閣府特命担当大臣 (沖縄及び北方対策、クールジャパン戦略、知的財産戦略、科学技術政策、宇宙政策) や内閣府幹部と東京で面会しました。

次期学長就任にあたりグルース博士は、「OIST は、世界の科学教育研究において、おそらく最も興味深いイニシアチブを掲げ、最高峰の研究大学機関になるという非常に高い志を持っています。日本政府は、急速に変化する研究学術界やビジネス界において、未来のリーダーを輩出する国際的で学際的な大学院大学を構築するための明確なビジョンを持っています。この度、次期学長として OIST を率いる機会を頂き光栄に思います。大いなる期待をもって、今後を楽しみにしています。」と述べました。

MPS は、国際的に高い評価を得ている科学技術の研究機関で、これまで 33 名もの (MPS から 18 名、前身のカイザー・ヴェルヘルム研究所から 15 名) ノーベル賞受賞者を輩出しています。欧州においては最先端の基礎研究機関といえます。MPS は、80 もの研究所において、5470 名のテニュア付研究者、4600 名の奨学生と客員研究員を含め、約 1 万 7 千人もの職員が在籍しています。グルース博士の会長時代、MPS は新たな科学分野を新設・拡充するとともに、マックス・プランク研究所の国際化、学生や若手研究者を対象とした研究サポートやトレーニングなどの育成強化を図りました。また、同博士は中央政府や地方政府と緊密に連携することにより、MPS 全体の財政基盤安定化に向けて大きな功績を残しました。

グルース博士は、研究成果の技術移転やイノベーション創出の分野においても主導的役割を担ってきました。医薬品会社の共同設立者であり、現在は、シーメンス・テクノロジー

&イノベーションカウンシルの議長を務めています。複雑な研究組織運営を主導してきたグルース博士のこれらの豊富な経験、および国際的なネットワークと将来に向けたビジョンは、OISTが今後も引き続き世界中から卓越した教員や学生を採用し、世界の学术界と産業界との連携を図り、発展する上で、そして、将来の沖縄の発展におけるOISTの役割強化にあたり、極めて重要です。

グルース博士の学長任命をもって、世界規模の次期学長選考は終了となります。2015年10月のOIST理事会会合で本選考開始が発表され、同年11月にアルブレヒト・ワグナー博士を議長とする、OIST理事8名と教員4名から構成される選考委員会（PSC）が立ち上がりました。2016年1月初旬には、研究・教育分野の主要専門誌などへの掲載を通じて公募を開始しました。その後、自薦・他薦による応募者140名以上の中から、厳格な審査・評価、およびビデオ会議による第一次面接を経て、5名の最終候補者（内、女性2名）がPSCとOIST理事会運営委員会により選出され、面接が行われました。その中でも傑出していたのがグルース博士で、2017年1月付で同博士を次期理事長兼学長に任命することがその後OIST理事会の全会一致で承認されました。この度、正式な任命手続きが完了したこととなります。

本件お問い合わせ先

<OISTについて>

沖縄科学技術大学院大学

コミュニケーション・広報ディビジョン メディアセクション

名取 薫 TEL: 098-966-2389（直通）E-mail: kaoru.natori@oist.jp

大久保 知美 TEL: 098-982-3447（直通）E-mail: tomomi.okubo@oist.jp

(別添1)

Peter Gruss ピーター・グルース

学歴

- 1977年 ハイデルベルグ大学、(分子生物学) 博士号
1974年 ダルムシュタット工科大学、微生物学研究所、修士号

職歴

- 2002-2014年 マックス・プランク学術振興協会会長
1997-1998年 マックス・プランク生物物理化学研究所所長
1986-2014年 マックス・プランク生物物理化学研究所、分子細胞生物学部長
1990 - ゲッティンゲン大学名誉教授
1983-1986年 ハイデルベルグ大学分子生物学センター理事
1982-1986年 ハイデルベルグ大学微生物学准教授
1980-1982年 国立衛生研究所(米国) 客員研究員、専門コンサルタント

社会活動歴(抜粋)

- 2015年- シーメンス・テクノロジー&イノベーションカウンシル議長
2015年- ドイツ工学アカデミー評議員
2011年- アクテリオン・ファーマシューティカルズ社理事
2008-2015年 シーメンス社監査役会委員
2009-2016年 ミュンヘン再保険グループ監査役会委員
2006-2014年 メルケル首相による連邦首相府「イノベーション・ダイアログ」会員
2002-2014年 ドイツ科学組織同盟会員
2002-2014年 ドイツ研究振興協会評議委員
2002-2014年 ドイツ工学アカデミー、
ドイツ科学・人文科学アカデミー連盟技術科学審査会評議員
1992-2002年 欧州分子生物学研究所(EMBL)、ドイツ代表、審議会会長

受賞歴(抜粋)

- 2012年 バイエルン州マクシミリアン科学芸術勲章(ドイツ)
2012年 エリス島名誉メダル(米国)
2009年 ドイツ共和国功労勲章、一等功労十字章
2007年 中華人民共和国国際科学技術賞
2004年 ニーダーザクセン州賞(ドイツ)

(別添 2)

沖縄科学技術大学院大学

2011年11月に設置された沖縄科学技術大学院大学(OIST)は、沖縄において世界最高水準の科学技術に関する教育研究を行い、沖縄の自立的発展と世界の科学技術の向上に寄与することを目的としています。2016年9月には第五期生35名が入学し、30を超える国と地域から集まった学生数は134名となり、学際的で先端的な教育・研究活動に勤しんでいます。また、現在までにおよそ60の研究ユニットが発足し、神経科学、分子・細胞・発生生物学、数学・計算科学、環境・生態学、物理学・化学の五分野において、研究活動を展開しています。このほか、国際ワークショップやコースの開催など、学生や若手研究者の育成にも力を入れています。

	日本人	外国人	合計	
教員	19	34	53	(2016年8月)
研究ユニットスタッフ	183	206	389	(2016年8月)
博士課程学生	23	111	134	(2016年9月)

創立からこれまでに1118本の論文が学術誌に発表され*、Nature等の影響力の大きい学術誌の表紙で取り上げられる**など、学術界で注目される研究成果が次々と出ています。また、既に17件の特許を取得、170件が申請中***となっています。2014年6月には、タンパク質を含む高分子を、様々な状態において、単一分子レベルの画像技術を提供する沖縄プロテイントモグラフィ株式会社、OIST初のベンチャー企業として設立されました。さらにOIST技術開発イノベーションセンターが中心となり、太陽電池開発やアルツハイマー病の治療の可能性など種々のプロジェクトの商業化を推進しています。

* 2016年3月31日現在

** 2016年12月1日現在 Chuya Shinzato, Eiichi Shoguchi et al. *Using the *Acropora digitifera* genome to understand coral responses to environmental change*, *Nature* (2011). 引用論文数: 232

Caroline B Albertin, Oleg Simakov, et al. *The octopus genome and the evolution of cephalopod neural and morphological novelties*, *Nature* (2015). 引用論文数: 43

*** 2016年8月31日現在

(別添3)

沖縄科学技術大学院大学学園理事会

沖縄科学技術大学院大学学園理事会は、学園の管理及び業務運営について最終決定権を有するとともに、最終的な責任を負い、学園及び本学の管理及び業務運営に関する事項を年2回開かれる会合で決定する。理事会は学長及び上級幹部職を任命する。学長は規定により学園の理事長となる。

理事会のメンバーである理事は、10人以上20人以下と定められ、科学技術の発達に関し特に功績顕著な科学者、沖縄の振興に関して優れた識見を有する者、大学の経営に関して高度な知識及び経験を有する者などを、理事会の議決によりそれぞれ定められた人数の範囲で選任される。

議長：トーステン・ヴィーゼル博士

ノーベル生理学・医学賞（1981年）

ロックフェラー大学名誉学長

副議長：有馬 朗人博士

公立大学法人静岡文化芸術大学理事長

学校法人根津育英会武蔵学園学園長

科学技術館館長

元文部大臣

元東京大学総長

元理化学研究所理事長

文化勲章（2010年）

理事：

安仁屋 洋子博士

琉球大学名誉教授

ロバート・バックマン博士

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園首席副学長（技術開発イノベーション担当）

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園副理事長

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園教授



カーティス・カラン博士

プリンストン大学

ジェームス・S・マクドネル物理学ディスティングイッシュトプロフェッサー

リタ・コルウェル博士

ジョンズ・ホプキンス大学（米国）公衆衛生大学院 特別教授

メリーランド大学特別教授

元米国国立科学財団長官

ジョナサン・ドーファン博士

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事長

沖縄科学技術大学院大学学長

ジェローム・フリードマン博士

ノーベル物理学賞（1990年）

マサチューセッツ工科大学（米国）教授

セルジュ・アロシュ博士

ノーベル物理学賞（2012年）

コレージュ・ド・フランス（フランス）学長

橋本 和仁博士

国立研究開発法人物質・材料研究機構理事長

小谷 元子博士

東北大学原子分子材料科学高等研究機構長

ヴィジェイラガバン・クリシュナスワミ博士

タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究所センター

ディスティングイッシュトプロフェッサー

インド科学技術省バイオテクノロジー局局长

黒川 清博士

政策研究大学院大学客員教授

元日本学術会議会長



李遠哲博士

ノーベル化学賞（1986年）

台湾中央研究院名誉院長

尾身幸次氏

特定非営利活動法人STSフォーラム理事長

元財務大臣

元国務大臣沖縄及び北方対策・科学技術政策担当

元国務大臣経済企画庁長官

尚 弘子博士

国立大学法人琉球大学経営協議会委員

公益財団法人沖縄科学技術振興センター評議員

アルブレヒト・ワグナー博士

ドイツ電子シンクロトロン研究所名誉所長

（計17名）



(別添4)

マックス・プランク学術振興協会

マックス・プランク学術振興協会(本部ミュンヘン)は、ドイツにある非営利の独立研究機関で、物理学者マックス・プランク(1858-1947)にちなんで1948年に設立された。83の研究所(うち5研究所と1支部はドイツ国外に所在)から構成され、自然科学、生命科学、人文科学、社会科学の研究分野において高度な基礎研究を実施している。約17,000人の職員のうち5,470人が研究者で、そのほかに約4,600人の奨学生と客員研究員が所属。設立以来、18人のノーベル賞受賞者を輩出している(さらに、同協会前身であるカイザー・ヴェルヘルム研究所からは15名)。

また、マックス・プランク協会の研究所では、国外からの客員研究員およびジュニア研究員が6,900人以上働いており、世界120か国で5,000を超えるパートナーと2,000以上の国際的な研究プロジェクトが進行中である(2012年)。

ドイツでは州立大学が高等教育機関の約7割を占め(学生数では95パーセント以上)、大学における研究活動の中心的役割を果たしているが、マックス・プランク学術振興協会をはじめとする非政府・非営利研究機関が、学際的な分野やコスト面などから大学では困難な高度な学術基礎研究を実施している。マックス・プランク協会の年間予算は約15億ユーロ(2013年)で、出資比率は連邦政府38.9%、州政府38.9%、その他22.2%となっている。

(出典：マックス・プランク学術振興協会ホームページ
文部科学省 研究振興局振興企画課学術企画室
ドイツ 科学・イノベーション フォーラム 東京)